

認定された中心市街地活性化基本計画に関する研究

Study on recognized as the City Center Revitalization Plan

○溝口萌¹, 龍野由姫¹, 池田采可¹, 泉山墨威², 宇於崎勝也²

*Moe Mizoguchi, Yuki Tatsuno, Ayaka Ikeda, Rui Izumiyama, Katsuya Uozaki

The number of approved basic plans for the revitalization of central city areas has been decreasing according to the revised Central City Revitalization Law of 2006. In order to understand the current status of the approved basic plans and to clarify the issues, we analyze the targets and evaluation indicators based on the follow-up reports for the 191 plans that have completed their planning periods. Although the targets and indicators were unevenly distributed, and more than half of the respondents generally achieved their goals, the targets did not show the originality of local governments, and the indicators were not effective indicators to accurately judge the achievement of the goals.

1. はじめに

1-1. 研究の背景および目的

現在我が国の地方都市は、自動車依存型の生活や郊外の大型店の出店などにより中心市街地が衰退している。2006年に中心市街地活性化法が改正されてから15年を経過し、中心市街地活性化基本計画(以下基本計画)の第3期目を計画中の地方公共団体が増えてきているが、基本計画の認定を受ける地方公共団体は減っている。

一方、内閣府は2020年に「第2期「まち・ひと・しごと創生総合戦略」」の中で、「中心市街地活性化促進プログラム」を設けて中心市街地活性化を図ろうとしている¹⁾。

本研究は、認定された基本計画を分析し、基本計画の現状を把握し、課題を明らかにすることを目的とする。

1-2. 研究の方法

本研究は、2021年8月末時点で認定された基本計画の計画期間が終了している191計画を対象として、フォローアップ報告書をもとに設定された目標と評価指標の分析を行う。

2. 中心市街地活性化基本計画の指標と達成度の分析

基本計画の目標・指標が目標数値を達成しているか否かについて分析を行う。

2006年から2021年8月末までに認定された基本計画を持つ地方公共団体数は第1期計画が164件、第2期計画が83件、第3期計画が26件となっている。これより、基本計画を次の計画に継続する地方公共団体は少ないとわかる。

2-1. 中心市街地活性化基本計画の計画目標について

1計画につき1~4つ掲げられている基本計画の目標

1: 日大理工・学部・建築 2: 日大理工・教員・建築

について分類を行った。分類にはテキストマイニングを用い、スコアの高い単語からすべての計画目標に係る語を除いた単語を分類した (Fig.1, Table1)。計画目標全体では頻出単語により「賑わいの創出」が最大の目標であること、目標の内容が「回遊性の拡大」「交流人口の拡大」「商業の活性化」「まちなか居住の推進」の4つの事柄に集中していることがわかる (Fig.1)。

また、4つの事柄を分類に使用した。計画目標は大きく4つに分類でき、「まちなか居住の推進」「交流人口の拡大」に関する目標がそれぞれ約1割を占め、4つの目標だけで約3割を占めている事がわかる (Table1)。

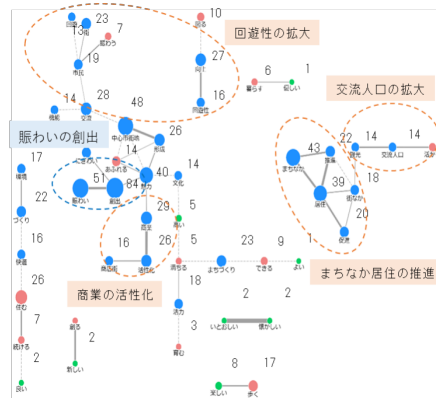


Fig.1. Text mining of planning goals

Table 1. Results of analysis of basic plan goals

主な基本計画の目標	件数 (n=451)	分類に使用した単語
まちなか居住の推進	50	まちなか居住・居住人口 住みたい・住み続けたい
交流人口の拡大	46	交流(人口)・訪れてみたい 来街者
回遊性の拡大	23	回遊・歩きたくなる
商業の活性化	22	商業・商店街

2-2. 中心市街地活性化基本計画の目標達成のために用いられる指標について

各地方公共団体の基本計画に掲げる計画目標の評価

基準となる指標について分析を行った。テキストマイニングの結果をもとに、使用される指標の頻出単語、当てはまる基本計画の目標、共起語の集計から、5つの指標が全体の約半数を占めていることがわかる (Table2)。

また、ひとつの指標を複数の計画目標の評価基準に用いていること、地方公共団体によっては、同じ分類の計画目標であっても異なる指標を用いていることがわかる。これは似たような基本計画の目標であっても地方公共団体によって重要視する視点が違うからと考えられる。

Table 2. Results of analysis of indicators

頻出単語	件数 (件)	主な基本計画の目標	共起語
通行量	187/483	まちなか居住の推進 交流人口の増加 回遊性の拡大	歩きたくない・賑わい・住みや 交流人口・回遊性・集客
居住人口	87/483	まちなか居住の推進 交流人口の増加	まちなか居住・賑わい・住みたく なる 快適・安心
空き店舗	26/483	商業の活性化	商業・サービス・商店 街 利便性・賑わい・再生
販売数	24/483	商業の活性化 まちなか居住の推進	まちなか商業・暮らしやすい・活 性 商店街・充実・賑わい・活力
観光	23/483	交流人口の増加	まちなか観光・交流人口・訪れ たくなる 集客・魅力

2-3. 評価基準となる指標の数値達成度

第1期計画においては、81件と半数以上の地方公共団体が達成度80%以上100%未満の数値で計画期間を終えている。また、第2期計画においては、第1期計画に比べ達成度が100%以上の地方公共団体の割合が25%から40%に増加し、達成度の上昇が見られる。

しかし、グラフ全体の形状は変化しておらず、目標値を大幅に上回る自治体は少ない。(Fig.2)

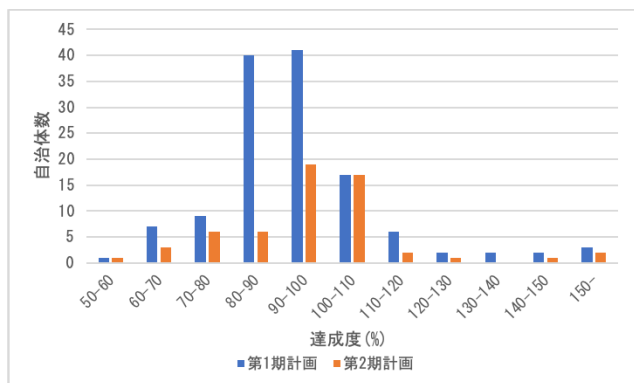


Fig.2. Level of achievement of target indicator values (by local government)

各地方公共団体の評価基準の指標(フォローアップの報告書により数値が明らかになっているものを対象(第1期計画395件,第2期計画192件))として、達成度を見ると第1期計画・第2期計画ともに、達成度が80%~100%の指標が半数近くを占めている。(Fig.3)

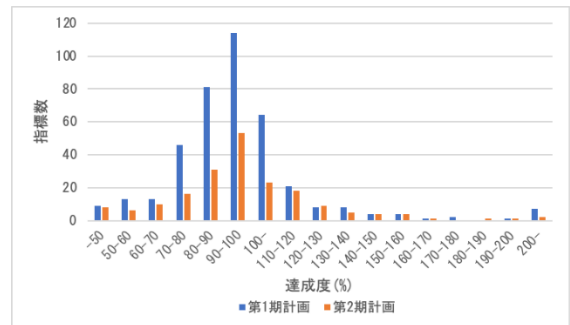


Fig.3. Achievement of target indicators (by indicator)

また、最も使用頻度の高い指標である「歩行者・自転車通行量」は、達成度にばらつきがあり、95件とおよそ半数しか90%以上の達成度を得られていない。

一方、次に使用頻度の高い指標である「居住人口」は、65件が達成度90%以上であり、達成度が高い傾向がある。(Fig.4)

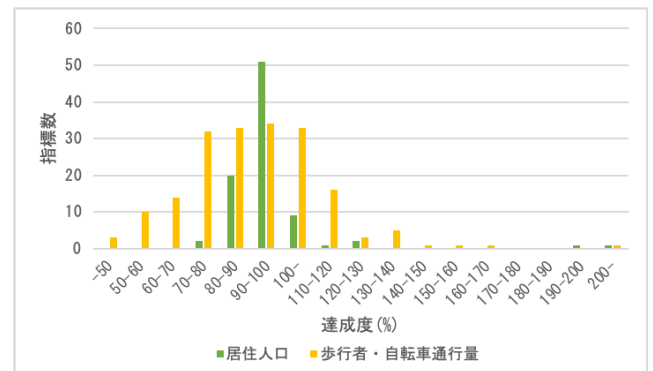


Fig.4. Achievement level by indicator

これらから、基本計画は居住人口の回復には成果をあげたものの、日常の通行量増加には結びつかなかったことがわかる。

3. まとめ

基本計画は地方公共団体ごとに定め、独自の施策を国が支援する。しかし、目標設定では各地方公共団体の目標が同じような事柄に集中し、地方公共団体の課題やポテンシャルを盛り込んだ目標設定などの独自性が見られない。

また、同じ評価基準の指標であっても地方公共団体によっては異なる目標で使用しているという現状があり、目標達成を正確に判断する有効な指標となっていないのではないかと考えられる。

4. 参考文献

1) 中心市街地活性化本部 中心市街地活性化促進プログラム 2020年3月(2021年9月16日閲覧)
https://www.chisou.go.jp/tiiki/chukatu/pdf/program_honbun.pdf